

令和8年3月町議会定例会

教育長 教育方針演述要旨

西和賀町教育委員会

日頃より本町の教育行政の推進につきまして、議員各位をはじめ、学校・保護者・地域の皆様方から、力強いご支援をいただいていることに感謝申し上げます。

本日、ここに「西和賀町議会定例会」が開催されるに当たり、令和8年度の教育行政推進の大要について申し上げます。

この1年、「第2次西和賀町教育振興基本計画」が掲げる「未来を拓き、地域を愛する人を育てるまちづくり」に沿って「学校教育」、「生涯学習」、「生涯スポーツ」、「歴史や文化」の4つの分野ごとに教育に関わる施策を具現化して参りました。

「**学校教育**」については、子ども達が好奇心や探究心をもち「学ぶ」ことに喜びを感じ、夢や目標の実現に向けて努力できるよう取り組んで参りました。授業の改善、外国語指導助手や部活動指導員等の人的配置、能力向上のための各種検定費の補助など、関係する多くの方々と連携し支援して参りました。その成果として、学習やスポーツの各種調査では大きな伸びを確認することができました。また、

各種大会やコンクール等では多くの活躍も目にすることができました。他にも郷土芸能の継承、農林業の体験など地域を知る学習も推進して参りました。

これからの西和賀の教育については「西和賀町沢内地区小中一貫校設置検討委員会」の報告に基づき、町の方針を決定し、説明会や意見交換会を行って参りました。今後もいただいた意見をもとにより良い教育のあり方を検討していく必要があります。

子育て世代の支援に係る保育については、この4月より湯田・沢内地区それぞれ1園舎で運営していくことから、求める保育環境の整備や保育内容の検討、そして、湯田地区の新園舎の建設準備を行って参りました。

県立西和賀高校については、長年の「魅力化」の取組により今年度から、1学年2学級80名定員となり、130名を超える生徒が在籍し、地域との交流を深めながら自己実現に向けて努力しています。今後も「高校の魅力化推進は町の活性化の要」とも位置づけ、西和賀高校の魅力化を推進する必要があると考えております。

「生涯学習関係」については、文化創造館「銀河ホール」を拠点に、音楽サークル「山の音楽隊」や第一線で活躍する音楽家の皆さんとつくる音楽会、劇団「こまつ座」や「前進座」による演劇公演等を開催し、町民の豊かな生活を支える文化活動の推進に取り組んで参りました。この3月には県内外から集まる高校生による演劇合宿事業「高校生アワード」を再開します。また、共生社会の第一歩として取り組んだ男女共同参画標語コンクールでは、多くの方々から御応募をいただき幅広い世代の方々に男女共同参画について考えていただきました。

スポーツ振興においては、競技力向上のための各種大会と地域作りのためのスポーツ交流会を積極的に開催して参りました。現在は町のスポーツ推進役となる「総合型地域スポーツクラブ」の設立を進めております。

以上のように今年度を振り返って参りましたが、迎える新たな1年も町民の方々の活力を生むために、関係する皆さんと協力・連携を図り、教育行政の推進に努めて参ります。

それでは、4つの分野の基本方針に沿って、令和8年度の教育行政における具体的な方向性について、述べさせていただきます。

○第1「未来を担う子どもたちの生きる力を育む学校教育」について

私たちを取り巻く社会は、多様な価値が混在し、時には激しくぶつかり合うなど混沌とした状況にあり、未だ成熟社会に向けての発展途上にあります。そのような状況下であっても、人のぬくもりを感じる環境の中で、子ども達が協働し良き未来を創造できるよう、次の7点を中心に学校教育を支援していきます。

はじめに、未来を切り拓いていくのに必要な「確かな学力」の育成についてです。専門的な教科指導や複式学級指導及び小中一貫教育を推進する指導主事と、外国語指導助手等の人的配置を継続します。研究公開校を湯田小学校に指定し、算数の学習を通して「筋道を立て、論理的に思考し表現できる能力」の育成を図るとともに、教職員の指導力向上に努めます。加えて、人は言葉を通して考えを深め

ることから「読解力」に着目し、「新聞を活用した教育」をさらに充実させ、生涯にわたり、自学と自立ができるための基盤づくりを支援します。

2つ目は、地域と共に作る「豊かな心の教育」についてです。小中の9年間の中で、町の自然や産業、文化・歴史等の価値ある資源に十分に触れる学習を展開し、児童生徒の豊かな感受性を育て参ります。併せて、この地域で懸命に暮らす人々の思いに触れる機会を創出し、地域の再発見と町に対する誇りを育て参ります。

3つ目は、「安全安心な教育環境」についてです。全国的には学校に居場所を見つけられず、登校できない児童生徒が35万人を超えています。学校が「夢や希望、悩みを相談できる場」、「失敗を恐れず挑戦できる場」であって欲しいと考えます。そこで各学校に複数の特別支援教育支援員及び中学校に教育相談員を引き続き配置します。また、昨今は害獣による人の生活圏への侵入があることから、スクールバスの運行を含め登下校の安全に配慮して参ります。さらに、自ら健康な生活習慣を身につけられるように学校保

健会との連携を図ります。そして、令和8年度からは小学校の給食費の無償化を行います。

4つ目は、「教職員の働く環境」についてです。教職員がやりがいを感じながら、児童生徒としっかり向き合う時間を確保することがより良い教育に重要です。そこで「西和賀町教職員働き方改革プラン」に基づき、令和8年度から岩手県クラウド版統合型校務支援システムを導入し、事務の効率化と業務改善を図ります。また、教職員の負担軽減と専門的な指導体制の充実に向け、引き続き部活動指導員を配置します。

5つ目は、「西和賀高校の魅力化」についてです。生徒相互や教職員との温かな雰囲気の中で切磋琢磨し、自己実現を目指せるよう支援して参ります。「習熟度別学習や公営塾等が支える確かな学び」、「安心して過ごせる生活支援」、「地域と協働した豊かな学び」を三本の柱に据え、海外派遣や各種試験・検定補助、併せて新たな学習支援と生活のサポートを行って参ります。

6つ目は、「保・小・中」が連携した一貫教育の構築です。

発達段階に応じた支援のあり方と一人一人が主体的に学べる資質・能力を育む教育を目指し、保育所・園と小学校間交流や、英語や理科、体育等の専門性が求められる教科を中心に、小中学校の校種間を超えた授業のあり方を検討して参ります。

最後は、子育て世代への支援の充実についてです。より良い保育環境の構築を目指し、4月より湯田地区は湯本保育園に、沢内地区はせんだん保育所に統合します。この変化に対する子ども達のケアに万全を期しつつ、「西和賀町第三期子ども・子育て支援事業計画」に寄せられた多様なニーズを具現化して参ります。他にも検討を重ねてきた病児保育事業の再開や、子育て支援機能と包括的相談機能を有した「こども家庭センター」の設置の準備、他地域からの子どもを受け入れる「保育留学」について検討し実施して参ります。

○第2「生涯学習の推進と環境づくり」について

現代社会は、A I の進化がD X（デジタルトランスフォー

一メーション) を加速させ、生活の利便性が向上する一方で、社会の変化に対応しきれないことによる生活の困難さや孤立感も生じています。そのような中、学びを通じた新たな発見や交流は社会との接点を生み出し、日々の暮らしに活力を与えてくれます。そこで、より良い学びに出会えるよう以下の3点を重点に取り組んで参ります。

はじめに、「町民大学講座」、「高齢者大学講座」等の各種講座、また親子で参加できる「家庭教育学級」、「読書会・読み聞かせ会」等を行い、新たな知見の獲得と参加者の交流を促進して参ります。併せて、男女共同参画推進サポーターや読書ボランティアなど人材の育成と受講者が活躍できる場面の創出を図ります。

2つ目は「読書活動」の推進です。各種調査の結果、子ども達の読書習慣に関わる課題が挙がっています。そこで2園に集約される町内の保育施設において、子ども達の興味や保育施設のニーズをもとに積極的に図書を貸し出し、小さい頃から本に慣れ親しむ機会を増やして参ります。また、家庭で読み聞かせができるよう「読書会」等を企画し、

読書が生活の一部となるよう支援して参ります。

3つ目は教育振興運動についてです。引き続き地域コーディネーターを配置し「実践班」による活動を充実させるとともに、子ども達の活躍を紹介した「広報誌」を発行し、地域全体で子育てする機運を高めます。また、地域とともにある学校づくりを目的とする学校運営協議会と教育振興協議会との関係を強化し児童生徒の「生きる力」の育成のための具現化を図ります。

講座や様々な活動後のアンケートでは肯定的な回答を沢山いただいております。今後も多くの方々に参加いただけるよう「生涯学習だより」を作成するなど、多様な方法で情報提供に取り組めます。

○第3 「誰もが参加できる生涯スポーツの振興」について

スポーツ振興では、町民が生涯にわたりスポーツに親しむ環境整備と機運の醸成を図り、「健康で活気あふれるまちづくり」に取り組めます。

特に、町のスポーツ振興及び地域づくりの牽引のため、

多世代・多種目・多志向に対応した、いつでも・誰でも・どこでもスポーツに親しむ環境づくりを目指した「西和賀町総合型地域スポーツクラブ」の活動を支援して参ります。子ども達を対象とした「スポーツ教室」の開催や、多世代が楽しめるニュースポーツ等の出前講座、指導者育成に関わる研修会を開催し、多くの方々にスポーツの楽しさを感じてもらい、健康づくりと地域づくりの一助となるように推進して参ります。

また、町主催の沢内クロスカントリースキー大会や北上沿線中学校野球大会を開催します。他にも各種目単位協会が主催するスポーツイベントの実施を支援し、競い合う楽しさと技術力向上を図ります。

その他、インターハイ県予選ローイング競技が錦秋湖を会場に開催されることから、県高体連と連携し運営を支援します。

○第4「地域の歴史や文化の継承と創造」について

町の歴史や文化は、この地を誇りに思い生活していくための拠り所となる社会的財産であり、心豊かな生活を実現

するための支えとなります。さらに、地域の独自性も発揮できることから関係人口の創出にも大きな影響力があります。そのため、次の取組を推進して参ります。

はじめに文化創造館「銀河ホール」の活用についてです。町の芸術文化協会と連携し、町民がより多くの文化・芸術に出会える機会づくりを推進して参ります。特に演劇活動の拠点として、高校生や大学生等の若い方々が集う学生演劇を支援し、文化の発展と関係人口の拡大に努めて参ります。本施設は開館以来30年を経過しました。今後も施設の機能を低下させずに維持していくために中央監視装置更新の工事を行います。これからも愛される銀河ホールにしていけるように関係する諸団体と協力を重ねて参ります。

子ども達の情操教育のため中学生の演劇講座や、第一線で活躍しているアーティストの方々による音楽活性化支援事業も引き続き行い、学校教育の充実にも取り組みます。

文化財については、大学や関係機関の協力を得て、適正な管理による保護に努めて参ります。併せて、地域に眠る歴史や文化を掘り起こす地元学への思いを育み、地域の活

力に結びつくよう工夫・支援をして参ります。

歴史民族資料館と美術館については、積極的に町の文化や歴史情報を発信する場としての活用を図るとともに、展示内容のより良いあり方を検討して参ります。

以上、令和8年度教育行政の具体的な方向性について申し上げます。これからも長い歴史の中で培われてきた西和賀の教育を大切にするとともに、新たな目標に向けた活動を行い、「地域に誇りを持ち、豊かな心を育てるまち」の実現に努めて参る所存ですので、議員並びに町民の皆様のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。